

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

日本臨床外科学会国内外科研修に参加して (2021年10月4日～10月8日)

京都第一赤十字病院消化器外科

小西 智規

日本臨床外科学会、国内外科研修のお話を消化器外科部長の塩飽保博先生からいただいたのは2021年春、新型コロナウイルス感染症が拡大、ワクチン接種が始まろうとしていた矢先のことでした。私はこれまで、大学卒業後同医局に属し関連病院中心に修練させていただき、消化器外科専門医、大学院卒業と約10年が経過していました。コロナ感染拡大に伴い、様々な手術動画サイトやWEB勉強会が多くなりわざわざ他施設に見学にいかななくてもご高名な先生の手術を見て学ぶことはできますが、手術に対する取り組み、手術場の雰囲気、術後管理なども含めて実際に施設を訪れてでないとは分からないことを勉強したくなってくる年頃であり、これはまたないチャンスと思い応募させていただきました。今までの研修された先生方の報告を読ませていただいたところやはり大学病院やがんセンターが研修先であることが多かったのですが、自施設のように一般病院で、多数(2倍以上)の症例数を誇る病院として恵佑会札幌病院を希望させていただきました。ギリギリまで京都、北海道ともに緊急事態宣言が発令されていましたが、行く直前に解除され無事受け入れていただき非常にありがたい限りでありました。

恵佑会札幌病院は会長である細川正夫先生が1981年に開設された消化器癌に特化した病院で、今年で開院40周年、8月1日に新病院に移設したばかりで大変お忙しい中研修させていただきました。食道癌150例/年、胃癌200例/年、大腸癌350例/年と北海道のみならず全国でもトップレベルの癌治療を民間病院でどのようにこれだけの症例数の手術を行っているのか、手術以外にも周術期管理や実際の先生方やコメディカルの方々の働き方など何か自施設で活かせることがあるのではと考えて参加させていただきました。

消化器外科は10名前後の先生が臓器別(食道、胃、大腸)、またロボット・内視鏡外科センター部門に分かれて手術を担当されており、開腹手術のみならず、腹腔鏡下、ロボット手術も積極的に行われていました。今回は関連病院含めて食道癌手術を縦隔鏡下手術でしか実際に学んだことがなかったので、腹臥位右胸腔鏡下/ロボット支援下手術を中心に見学、実際に手術に入らせていただきました。まず驚いたのはハード面では手術室、通路がとにかく広く、da Vinciがすっぽり収まり、console 2台設置してもまだまだ余裕があるくらいでした。プロクターである北上英彦先生を中心に指導/執刀、池田先生、藤原先生、新田先生が主にロボット手術/助手を務めておられました。縦隔鏡手術のメリットとして非開胸手術、低侵襲が挙げられますが、実際に胸腔鏡/ロボット支援下手術を見学させていただくと開胸にはなりますが胸部操作時間も短く縦隔鏡下手術と比較しても十分低侵襲な印象を受け、非常に魅力的な術式だと感じました。また手術の定型化が行われており、麻酔導入から体位のセッティングが非常に早く、看護師さんMEさんがほぼすべて整えられ、9時30分出しでも10時前には手術開始となっていました。胸部操作の後、体位変換(これも10分程度)、仰臥位で開腹/腹腔鏡/ロボット操作、ほぼ平行して頸部操作も行われ手術が非常にスムーズに進んでいきました。癌手術以外にも二次救急まで対応されており、1週間の研修期間に食道切除3例、胃全摘3例、大腸切除7例、瘻切1例、肝切1例、胆摘2例、ヘルニア3例、虫垂炎切除2例、消化管穿孔手術1例、イレウス手術1例と多数行っておられ、すべての手術を見学することはできませんでしたが、いずれも手術に非常に無駄がなく、流れるように手術が進行し、ほぼすべてが時間内に終了していました。自施設とほぼ同人数であるにも関わらず、これだけの手術を

研修医や専攻医がない状態で、基本的には2人で手術が完遂できるように手術を割り振り、手術室の調整が行われ、かつ時間内に手術が終わるよう職員みんなが協力して取り組んでおられるのが非常に印象的でした。このような時間外勤務をいかに減らし、効率よく、かつ各人の負担を減らす工夫は今後医師の働き方改革にも非常に重要な要素であり自施設もぜひ取り入れていかねばならない点だと感じました。

また詳細には触れることができなかったですが、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）や西日本がん研究機構（WJOG）参加施設であり、臨床試験にも積極的に取り組んでおられました。

コロナ感染で制限はかかっておりましたが、夜には細川会長、北上先生はじめ会食の席を設けていただき、夜の札幌の魅力、先生方の熱い思いを拝聴する機会にも恵まれ非常に密度の濃い有意義な研修をさせていただくことができました。

今回の研修で得た経験を元に、自施設においても手技や取り組みを導入、さらに発展させ、少しでも追いついていきたいと考えています。

最後にこのような機会を与えてくださった、国内外科研修委員会委員長の高山先生、日本臨床外科学会のみなさま、受け入れてくださった恵佑会札幌病院 細川正夫先生、北上先生はじめスタッフ方々、快く送り出してくださった塩飽先生や先生方に感謝申し上げます。

